



## 座光寺風景

### 新大久保橋 橋げた工事

大型クレーンで、あっという間に工事は完了しました。

**座光寺スマートインターの  
橋梁架設工事が行われました**

九月二十六日の夜、新大久保橋の橋梁架設工事が行われました。

中央道をまたいで設置されるこの橋は、高速道路通行の妨げとならないよう、設置場所のそばの安全な場所で、橋げたを組み立て、これをクレーンで吊り上げて設置するという工法がとられました。

この日用いられたのは、ドイツ、リープヘル社製LR1750HS800という国内最大級の七五〇トン吊りのクローラクレーンで、のべ二十台を超えるトレーラーに分割された部品を、二日間かけて現場に運び込み組み立てられました。

工事当日は、夜十時に中央道が通行止めとなると、十時五十分頃、およそ八十八トンの重量がある新大久保橋の橋げたが軽々と吊り上げられ、わずか十五分足らずのあっという間に中央道の上に運ばれると、すでに完成している橋台に音も無くピツタリとはまり込みま

した。

この日は、事前の予告などはありませんでしたが、近隣住民や、建設機械に興味のある方など、一〇〇人を超える見物客が集まり、工事の様子を見守りました。

クレーンに吊り上げられた橋げたが見事に橋台におさまると、見物客から「すごい、かっこいい」などと歓声があがり、大きな拍手がまきおこりました。

座光寺スマートインターの工事は最終盤となっており、三月末の供用開始に向けて地元住民の期待は高まります。



# 「ふるさと座光寺へ還ろう」プロモーションビデオが完成



令和元年度のムトス飯田助

成事業の助成金を活用して、座光寺地域のすばらしい自然や文化を映像化したプロモーションビデオを二本製作しました。ドローンによる上空からの映像を中心に地区内十九地区の特徴や由来などを紹介する「自然編」六分と、座光寺のことならなんでも知っている「座光爺」と元気な座光寺の子ども「麻績っ子」が地区内の歴史や文化を紹介する「座光寺めぐり編」十八分です。麻績っ子の声は座光寺小学校の三年生が担当しています。

伝えます。

小学校の教材としても役立ててもらえるよう、座光寺小学校にDVDをお届けしたところ、早速全校集会で見ていただきました。子どもたちには、ふるさと座光寺への愛着を深めてもらい、いったんはこの地を離れても座光寺に帰ってきて地域のことを期待しています。

DVDの貸し出しもしていますので、お集まりの機会などでご覧ください。座光寺地域自治会ホームページからも見るこ



とができます。ぜひアクセスしてみてください。←



## 座光寺小学校宮澤校長より

座光寺の魅力がいつぱいつまったDVDを、全校で見ました。

「あ、ここ知ってる。」

「ここ行ったことがある。」などの声をあげながら興味津々に見ていました。座光寺小が城跡だったとはじめて知った子もたくさんいました。機会あるごとに見返していきます。

# “新型コロナウイルスと上手く付き合う”学習会

九月二十七日（日）、座光寺公民館企画委員会主催の学習会が開催されました。

この日は「新型コロナウイルスを知ろう！」新型コロナウイルスと上手く付き合う方法」と題して、本年私たちが様々な分野で苦しめてきた新型コロナウイルスをテーマに、飯田市立病院の感染症認定看護師の桜井一彰さんを講師に迎えて、学習会を企画しました。

当日は、ソーシャルディスタンスを十分に確保するため、公民館より広いエス・バードのホールを会場とし、参加者にマスクの着用をお願いしたうえで、事前の検温や消毒、会場の換気など感染症対策を万全に行って講演会を開催しました。

講演会の中で、講師の桜井さんから、新興感染症である新型コロナウイルスに感染した場合、発熱や呼吸器系の疾患など生物的影響のほか

に、必要以上に不安や恐れを感じさせる心理的影響、偏見や差別などの社会的影響の三つの影響があるとのことでした。

心理的影響に対しては、不安を取り除き、感染症と上手に付き合うために、このウイルスを良く知る事が重要である。新型コロナウイルスに感染した人は症状が出る二〜三日前から他の人に感染させてしまう事が大変厄介な点で、症状の無い人でもマスクをずる事が感染拡大防止に有効な事や、日常生活においては、ウイルスは飛沫感染と接触感染によって伝播するので、手など皮膚にウイルスが付着したとしても、口や目などの粘膜に触れる前に洗い流せば感染しないことなどが解説されました。

社会的影響に対しては、新型コロナウイルスに感染した患者の家や職場に嫌がらせの電話や張り紙、投石などがあつたこと、無関係の飲食店の名前がSNSに出演して、営業に大きな支障をきたした事、医療スタッフやその家族が、学校や

職場などでの差別や偏見で大変な思いをした事などが紹介され、こういった人間の醜い一面はウイルスより恐ろしいと感じたと、新型コロナウイルス対応の最前線の現場で感じた苦悩をお話しされました。

今後、私たちは、この感染症に注意しながら、社会活動も継続していかなくてはなりません。新型コロナウイルスを正しく理解する事が、感染予防と、偏見や差別の防止にとっても重要だと感じる学習会でした。



現場での貴重な話を聞かせていただきました

# 議会報告・意見交換会を開催

十月六日（火）、座光寺公民館において、座光寺・上郷地区住民を対象に議会報告・意見交換会が開催されました。

今年、新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、参加人数を制限するなど、例年とは違いかたちで行われ、全体会が行わずに、三つの分科会に分かれて開催しました。

各分科会で議論された内容は次の通りです。

## 第一分科会 テーマ

環境問題・住みよい街づくり

第一分科会は、主にゴミ問題について議論が行われ、川路地区の県が管理する道路にゴミの投げ捨てが多く見られる事をあげ、座光寺スマートインター開通に伴い周辺環境を懸念する声や、河川清掃が高齢化により困難とな



る中、河川に倒れこむ竹林の対策を求める意見が出されたほか、歩道に植えられた街路樹の管理が地域任せとなり、管理できないので廃止も含め検討してほしい事、ゴミの不法投棄が相次ぐ場所、土地所有者と協力して対策を進める事、空き家対策とその周辺の美化は環境と治安の対策としてもお願いしたいなどの意見が出されました。

## 第二分科会

第二分科会は、社会文教委員会が調査研究を進めている「子どもを見守り育て地域社会について」～「社会的処方」による地域のつながりが子育ての孤立を救う～をテーマに、「子育て、地域コミュニティ」をキーワードとして意見交換が行われました。

初めに、話題提供として、つどいの広場「ゆるり飯沼」の利用状況等概要説明と飯田市の乳幼児保健事業の実態が説明され、子どもだけでなく子育て中の親の支援が必要なケースが増加しているとの話がありました。

その後、五、六人ほどのグループに分かれ意見交換が行われました。各グループの発表では、核家族が増え、子育て環境が変化している。つどいの広場も含

めもつと情報を広く提供したらいののでは。行政で行う事業も必要であるが、子育て親子を地域で見守れる地域コミュニティの必要性を感じる。進んで地域の事業に参加できればよいが、なかなか参加の機会、きっかけがつかめないと参加しづらいのでは等の意見が出されました。子育て中の親子が孤立しない様、そのきっかけづくりの一つとして、公民館が行っている各種事業が担えられるよう今後の事業の継続、展開、周知方法などを検討できればと考えます。

## 第三分科会

第三分科会では、「リニア周辺整備や座光寺スマートIC事業からリニア時代の地域を考える」というテーマで意見交換が行われました。

・リニアが来ると農業をやりにくくなるのでは？また、スマートICへつながる道路が車の増加により農耕車の通行が難しくなるのでは？

・天竜川上での緊急停止時に防音壁無区間が必要である事がJRから最近説明があった。説明が遅く困惑している。また、この内容を市議会の皆さんが知らないのはいかがなものか？  
・接続駅は大金がかかるので、本当に必要なのか慎重に検討してほしい。などの切実な意見が挙げられました。

# 簡単でおいしい！ 男性料理教室

十一月十九日（木）に健康福祉委員会主催による男性料理教室が公民館調理室で開催されました。

今回は豊丘村から池野育子さんを講師に招き、参加者八名にて調理に挑戦し、試食するという内容でした。

参加者とスタッフが三、四名ずつ四班に分かれ講師の指導の下、調理を行いました。

参加者のレベルは料理の得意な方から、普段包丁すら握らない方まで幅広く、皆で教え合いながら料理を楽しみました。およそ六十分で調理を終え、全員での試食会となりました。

この教室は元々配偶者に先立たれた男性が自ら料理を学ぶために企画され、始められたものだそうです。

男性料理教室は毎年、五月、七月、九月、十一月、二月の年五回行われていたが、今年度はコロナウイルスの影響で五月、七月の開催は中止、前回の九月は密を避けるため「生活習慣病予防のための学習会」となりました。そして十一月に入り、感染対

策を行ったうえで飲食を伴う教室を行うことになりました。

今回の男性料理教室の開催予定は令和三年二月十八日（木）午後六時からです。興味のある方は、参加してみたいかがでしょうか。

## 【本日の献立】

- ・鶏肉のカリッと揚げ薬味ソースがけ
- ・桜えびのおろし和え
- ・海苔の吸い物
- ・ごはん
- ・果物

（広報部）



# 公民館体育部 ニユースポーツ体験会 in 座光寺

本年度、新型コロナウイルス感染症の影響で公民館活動がままならない状況の中、座光寺地域市民運動会の開催について、四月から度重なる体育部会を開き、どうするべきか、いろいろな意見を出し合中、運動会の開催は難しいという結論に達しました。

その中で、運動会のテーマでもある【交流と親睦】について何かできないか体育部で考えました。地域全体は無理でも、三密を避け、地域の皆さんが安心して参加できるような、地区単位で出来ることはないか、という議論の中、座光寺小学校、麻績のひろば、水辺の広場の三会場に十六地区を割り振り、一時間で二種目(クロリテイとグラウンドゴルフ)のニユースポーツを地区ごと体験してもらおうということになりました。検温、手消毒、マスク着用に加えて、器具の消毒、健康チェックシート

の提出等、安全面に細心の注意を払い、地区の皆さんのご協力をお願いして開催しました。

ニユースポーツ体験会当日、

晴天の中地区の皆さんが各会場に集まり始めお顔を拝見し、少しでもこの体験会を開催してよかったですと思いました。笑顔、笑いの中、新型コロナウイルスを吹き飛ばすかの如く少ない時間ではありましたが老若男女、体育部の考えを上回る地区内の工夫など、地区の交流の機会になりました。当日、参加いただいた方からは、「運動会ができないのは残念だけど企画していただいてありがとうございます」と温かいお言葉をかけていただきました。他にも、「楽しかった。」「地区のみんなで親睦を深めることができた。」などの感想もいただきました。

初めての試みではありましたが、ニユースポーツ交流会を企画運営出来てよかったと思います。開催するにあたり、地区体育係の方には、地区内へお声かけ等、大変お世話になりました。コロナ禍ではあります、公民館体育部ではこれからも、安全面を第一に考え皆さんが安心して楽しく身体を動かしてもらええる企画を考えていきたいと思えます。

初めての試みではありましたが、ニユースポーツ交流会を企画運営出来てよかったと思います。開催するにあたり、地区体育係の方には、地区内へお声かけ等、大変お世話になりました。コロナ禍ではあります、公民館体育部ではこれからも、安全面を第一に考え皆さんが安心して楽しく身体を動かしてもらええる企画を考えていきたいと思えます。

## 麻績のひろば



## 座光寺小学校



グラウンドゴルフ



クロリテイ



## 水辺の広場



# 公民館健全育成部 子ども科学教室

十月十七日(土)に、健全育成部の主催により、子ども科学教室が開催されました。講師として、NPO法人環境わくわく体験スクールの湯澤先生をお迎えし、二十四名の親子の皆さんが参加してくれました。コロナ禍での屋内行事となりましたが、換気、消毒などの感染防止対策を充分に行い開催することができました。人間が生活する中で排出する二酸化炭素の影響で地球の温暖化が進んでしまうため、少しでも二酸化炭素を排出しないエコな発電が必要であると熱心に説明して頂きました。参加した子ども達は、ソーラーカーを組み立てたり、風車、水車で電気を作る実験を見たり、目を輝かせていました。

## ソーラーカー製作体験に

参加して

唐沢 赤須 基紀

十月十七日(土)に子ども科学教室でソーラーカー製作体験があり、小学二年生と保育園年中の二人の息子と参加させて頂きました。ソーラー



カーのキットを組み立てる作業を行っていきながら、ソーラーパネルで発電して電池に電気を溜めることを学びました。

当日は雨が降る天気だったので作ったソーラーカーを外で走らせることはできませんでしたが、室内でライトを使ってみるまで走らせていました。息子達に感想を聞くと、「ソーラーパネルを組み立てるのがおもしろかった」、「車のカバーにきれいにテープを貼れて楽しかった」と言っており、楽しい体験ができたと思います。

また、作り終わってから、ソーラー以外の発電方法の水力、火力、燃料電池について実験をする所を見せて頂きました。子ども達みんなで前のテーブルへ行き、実験している様子を近くで見ている、楽

しそうに学ぶことができたと思います。

ただ、小学校低学年や保育園児にはちょっと難しい内容だったので、どのくらい理解できているのかは分かりませんが興味を持つきっかけになってくれればと思います。コロナ対策を行いつつ運営して頂いている方に感謝し、次の科学教室などの体験があれば、また参加していきたいです。

# ふるさと体験教室

公民館健全育成部

十一月一日(日)に麻績のひろばにて、ふるさと体験が開催されました。天気にも恵まれ十六組五十人の親子が参加しました。まず、講師の上郷考古博物館の吉川さんから土器についてのクイズが出題され、雑学を含んだ古墳時代の生活の話、土器についての説明がありました。その後、火

起こしの説明を受け、各家族に分かれて火起こし器で火起こし体験をしました。初めは、火起こし器の使い方戸惑っていました。コツを掴むとどんどん火が付いていきました。火が付いた後は、お待ち

ちかねの焼き芋をほおぼり、和やかな行事となりました。  
たのしかった  
火おこしたいけん  
二年 藤田 柚愛

わたしは、おみのひろばで火おこしたいけんをしました。

さっそく、火おこしきをつかって、火をおこそうとすると、なかなかけむりが出てきません。だんだんこつをつかんできて、さいごには、火をおこせました。わたみたいなのに火がついたら、ちよつとあつくてやけどしそうでびっくりしました。

さいごに、たき火でやきいもをつくってあって、そのやきいもを、友だちと食べました。火おこしを長い時間がんばったから、やきいもが、よ



## 一回火がついた

四年 吉澤 実琴

私は、火おこし体験をしました。まず、先生から、昔の土器の話をしてもらいました。つばについているなみなみのもようは、昔の人が縄でつけたらしいです。私は、昔の人は器用だなと思いました。次に木でつくってある、火をおこすための道具で火をおこしてみました。黒いすずが出て、けむりがたっぷり出てきたら、あさの火口で、つつんで空気が入るようにゆっくりに回りました。けつこう回りました。こけて、けむりが出てきたので楽しみにしていました。二回つきました。やきいもも食べました。しゅるいがあつて面白かったです。

### 小学校米づくり

座光寺小 五年生

毎年、耕雲寺横の水田で一年を通じて米作りを体験し、私たちの主食である米ができる様子や、昔と今の稲作の違いなど、米作りを通じて多角的な学習が行われています。

この学習、昨年までは、楽農隊がボランティアとして子どもたちの指導をして下さっていましたが、楽農隊の皆さんが引退解散されたため、JAみなみ信州青年部の皆さんがこの活動を引継ぎ、座光寺小の子どもたちに米作りの指導をしました。

JAみなみ信州青年部は、同JA管内で活躍する若手農業者の組織で、座光寺地域内



には、十二名の会員が所属し、地域の農業振興や、地域貢献活動を行っています。

今年の春はコロナウイルスの影響で臨時休校がありましたが、学校側は地域のの人に教えてもらう事を大切にしており、明けた直後の五月二十六日に全員で田植えを行い、九月二十九日の稲刈り、十月十五日の脱穀と、無事一年間の栽培を終え、十一月二十五日に、子ども達が青年部の皆さんを招いて、収穫祭と学習発表会を開催しました。

最近では、米作りを経験している子どもは、ほとんどおらず、田んぼの泥に足をとられたり、稲刈り鎌に悪戦苦闘したりしながらも立派に米を収穫することができました。

今はコンピューターで何でもできてしまう時代。汗をかき肌で感じる事ができる米作りの体験は、子どもたちにとって貴重な体験となりました。

### 保育園だより

ぼくたちわたしたちの大好きな保育園

◀保育園のジオラマを作りました。虹の門、看板、遊具を細かに再現していました。



▲耕雲寺 いっぱい遊んだ草むら。草花や虫などたのしかった思い出を作りました。

### 中学校だより

コロナ禍での文化祭

高陵中三年

山崎晴陽(大堤)

今年の高陵祭は例年のようにはなく、規模を縮小して無事開催することができました。しかし、僕を含む三年生はきっと残念な思いでいっぱいだったと思います。コロナ禍で開催できること、さらに中学校生活最後の高陵祭であることを考え、充実したものしようという気持ちにより強くなっていたと思います。

◀ジオラマの周りにドミノを並べ完成!! みんなで手をつなぎ、スタートをしました。当日はドミノが止まってしまいましたが…。



◀好きなあそびの森 虫くい葉っぱを再現したり、遊具を本物の木を使って作ったり、カブト虫もたくさんおきました。



二日目の音楽会では、学年合唱のみの発表でした。三年生は体育館で、一、二年生は教室でのリモートによる鑑賞になってしまいました。



縦割りKKTでの大玉送り

また、吹奏楽部と黒田人形部の発表もありました。演奏する機会が少なかったこともあり、一生懸命取り組む仲間の姿がありました。

今年度、生徒会三役の思いから、大玉送り、綱引き、障害物リレーを縦割り学級対抗での体育祭(縦割りKKT)を行いました。今年度初めて行う企画であったため、リハーサルを何度も行いました。

今年の高陵祭は制限の多い中で開催でしたが、拍手が起きたり、他学年の仲間との交流が深まったりと、温かい雰囲気の高陵祭を全力で楽しむことができました。

## 座光寺出身の漫画家 好本拓朗さん 地元で活躍中!!

漫画家好本拓朗(本名榎原拓朗)さんは、座光寺下羽場出身の三十三歳、現在は週刊漫画TIMESに、ラグビーを題材にした作品、ノーサイドクエストを連載しており、二巻まで発売された単行本は、地元書店でも特設コーナーが設けられるなど、話題となっております。

好本さんは、本年六月から座光寺に在住、パソコンやインターネットが発達し、日本どこどこにも漫画を描くことができると本作品連載開始と同時にUターン。東京など日本各地の編集者やアシスタントをオンラインで結び作品を仕上げます。

地元に戻ってきて仕事をされるようになった好本さん、飯田に住んでいても東京と比べて不便になった事は無いと話し、家賃などは安いし、時間と心にゆとりをもって作品作りができる、地元で仕事をされるメリットをお話してくれました。

好本さんが連載をしている作品「ノーサイドクエスト」



©好本拓朗/芳文社

は、様々な問題を抱えたラグビー未経験の高校生たちが、それぞれの長所を活かして活躍するストーリーで、本作品の面白さはもちろんのこと、作品内には上郷ラグビースクールや、神飯田高校、天竜川工業など、南信各地にちなんだ名前が登場し、作品を通じて、日本中にこの地域を発信して下さっています。

まだ「座光寺」という地名は作品に登場していませんが、好本さん曰く、楽しみにしてほしいとの事。

地元初発信の漫画「ノーサイドクエスト」今後の展開にぜひご注目下さい。(広報部)

## 1月の成人式は延期します

座光寺地域成人式実行委員会 実行委員長 塩澤 哲夫

令和二年度の成人式について、令和三年一月十日(日)の開催予定を延期し、八月以降の開催といたします。

飯田市成人式実行委員会において、今の新型コロナウイルス感染拡大の状況を考慮し慎重に協議した結果、「延期やむなし」との結論に至りました。

成人式は、立派に成長した地域の若者の皆さんを、地域を挙げてお祝いする式です。

新型コロナウイルス感染防止対策を徹底して行い、皆さまに例年のようにお集まりいただき安心して参列し、みんなで心を込めてお祝いできるように、式を企画運営しようと考えています。

飯田市では、新成人を対象にして抗原検査をお勧めし、それに対する補助をと考えておりましたが、今回の延期を受けて一旦白紙に戻させていただきます。ただし、八月以降の開催の折りの動きがあるものと推測してまいります。

私たちは、「成人式、八月以降の開催」をしっかりと考えています。

新成人の皆さんには、落胆せずに、これからも自分の感染予防を心がけ、日々の生活を充実させてお過ごしただくようお願いいたします。

地域の皆さんには、このように成人式に関わる人達がみんな、できる限りの対策と注意をして、何とか成人式を安心安全に開催しようとしています。温かく優しく見守っていただきたいと願っております。

どうかよろしくお祈りいたします。



座光寺の自然シリーズ ②  
麻績神社境内のヤブコウジとマンリョウ

冬の里山を歩くと思いがけない植物に出会うことがあります。麻績神社のヤブコウジもその一つ。地表を緑の葉が覆い、赤い実が彩を添えます。高さは15cmほどで小さなものですが、冬枯れのなか、なかなかいいものです。

一面に生える様をよく見ると、互いに地下茎で繋がっています。もしかしたら個体数そのものはそう多くないかもしれませんが、段丘崖の落葉樹林にはところどころに見られます。また庭園に植えている人もいます。



ヤブコウジ (サクラソウ科)



マンリョウ (サクラソウ科)



センリョウ (センリョウ科)

冬の赤い実四種

高さは約40cm、赤い実が葉の下にたくさんついています。これらは神社関係者が植えたもののようです。また段丘崖の森には自生しているものがあります。これらは完全な野生由来か、庭園に植えたものからたねが逸出したものかは不明です。

江戸の頃からでしょうか、冬に赤い実をつける四種をヤブコウジ、十両、カタチバナ、百両、センリョウ、千両、マンリョウ、万両と呼び、鑑賞していました。なぜこう呼んだかはわかりませんが、実物を見ると差がある

県内の過去の記録

ようには思えません。この内の二種(上記)が段丘崖にあります。他の二種はあるのでしょうか？

カラタチバナはお隣の愛知県では山中に稀に見られ、センリョウはより多く見られます。「長野県植物誌」(1997)によると、ヤブコウジは県下各地、マンリョウ



カラタチバナ (サクラソウ科)

ウは高森町以南、カラタチバナは天竜村に記録がありますが、センリョウは県内に記録はありません。センリョウの全国分布は関東以南とされています。

ます。この場合、海岸沿いの地のことがあるものです。座光寺でも植栽している人がいるかもしれませんが、そのたねが逸出することはあり得ると思っています。

お金の価値ほどこの四種に差があるようには思われませんが、「万両」が身近な里山にあるのは嬉しいものです。(伊那谷自然友の会・小林正明)

編集後記

コロナ禍での一年もあと僅かとなり、雪虫が舞う姿に今年の雪は如何ほどの降りかと重ねて心配な時期となりました。

昨今の今頃は何をしていたのだろう。そうだ、旅行を計画していたのだ。日々目的地を考え、美味しい店の選定に余念がなく、新しく購入する物を決め、その日を待っていた。正にギリギリ許される日程だった。

いや待て、そうだ、経済とは何と様々な業種で成り立っているのだ。旅行一つでもこうなのだからと改めて思った。コロナ禍とは、正に災い、厄、厄災だ。昨年までの平穏な日々が訪れるまでには時間が必要だろうが、人類は幾度となくこのような困難を乗り越えてきた。今回も後世に語り継ぐ事のできる日が来ると信じて。

次号広報座光寺五十六号は文化祭特集する予定です。

(広報部S)

